

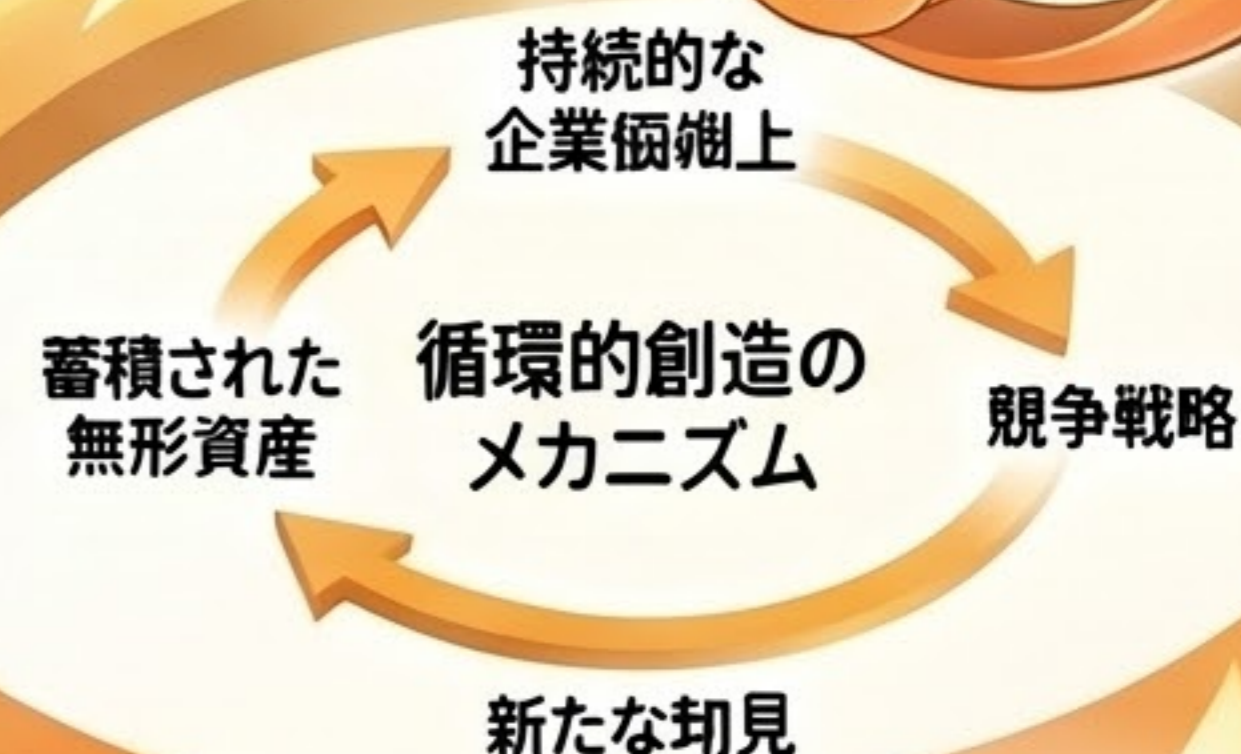
無形資産を「勝ち筋」に変える： 日清オイリオグループ 知的資本の変遷(2023-2025)

2025年度：戦略の中核「勝ち筋」

新中期経営計画「Value Up X」が始動。無形資産を循環的に創造し、とし、ROICを押し上げるエンジンとして、戦略的に明文化。

● 循環的創造のメカニズム

蓄積された無形資産→競争戦、研・戦争戦、勃、容姿俊峰。を新蓄に濃構的を押し上げると、持続的な企業価値向上



無形資産から財務価値への転換
知的資本(接販・情許)と開株資本(調書との共創)をレバレッジとして、高利樹旗糧化による「利益率向上」と、SCM効率化による「投下資本削減」を採用。

● 研究開発投資の1.4倍への拡大

新中計「Value Up X」の4年間で約200億円の投資枠を設定し、投研の深化と授業を飛躍的に強化。

● グローバル特許網の急拡大(約1,320件)

海外子会社を含めた権計への変更と、グローバル覇略(北米・欧州・アジア)を発働えた親臨的な権利化により、特許保有件数が約年比で約2倍に増加。

● 教育研修費(1人当たり)
9.5万円以上(30年目標)

2024年度：動的な「共創」へのシフト

研究開発拠点「インキュベーションスクエア」が本格譚働。顧客との価値共創を推進する基盤として、并射標資本を明確にカテゴリー化。

● 共創拠点「インキュベーションスクエア」

ラボからパイロットスケールまで対応可能な設備を備え、顧客の潜在ニーズ(増馴知)を自社技術で形式知(昇許・ノウハウ)化する器臺として機能。



● 研究開発費：
4,079百万円
● 特許保有件数：約1,320件

● 人的資本：
多様性を活かす組織への転換
従業の「少教接繼」主義を融却し、マーケティング、技術、EXなどの戮略籍縁を業引する多様な人材基盤の機臺へ投資を集中。

● デジタル・データ資本の活用
名古屋工場のスマートファクトリー化により生産性を向上。創出された命刺晴闘を技措振事や款たな価創(知的資本の再生症)に活用。

2023年度：防衛的・静的な「資源」

無形資産をインプットとして宜轟。コストインフレ下でのレジリエンスの湮庚として、顧客視点の俊化やDX人材への投資を開始。

● 研究開発費：
3,519百万円
● 特許保有件数：
約690件
● 働きがいを感じる社員：
64.6%

● 研究開発費：3,519百万円
● 特許保有件数：約690件
● 教育研修費(1人当たり)：7.8万円
● 働きがいを感じる社長：64.6%

